

ジャンル / 詩

poets



山中

YAMANAKA Chiruu

散生

代表作

『山中散生詩集 火串戯 (ヒアソビ)』
(1935 年)

『黄昏の人』 (1956 年)

『砂の楽器』 (1967 年)

『シュルレアリスム資料と回想』
(1971 年)

『ダダ論考』 (1975 年)

ほか多数

活動略歴

- 1905 年 愛知県に生まれる。本名は利行。
- 1923 年 名古屋高等商業学校に入学。在学中横部得三郎教授から仏語と仏文学の特講を受ける。その後当時名古屋で刊行されていた象徴派の詩誌『青騎士』に参加。
- NHK 東海支部に就職、後年には静岡局長。
- 1929 年 富士原清一から雑誌『衣裳の太陽』を贈られたことを機にシュルレアリスムに傾倒。
- 1929 年 雑誌『Ciné』を編集。同人には亀山徹、稲垣足穂、北園克衛、春山行夫。
- 1933 年 仏詩人ポール・エリュアールとの文通が始まり、アンドレ・ブルトン、ジョルジュ・ユニエらに広がる。
- 1934 年 ブルトン、エリュアールらと共同企画した『L'ÉCHANGE SURRÉALISTE』(山中散生編、ボン書店)を刊行しその作品を『詩と詩論』『文藝汎論』などに紹介。
- 1938 年 仏『シュルレアリスム簡約辞典』にてその名を記された。

YAMANAKA Chiruu (1905 – 1977 / Genre : Poets, Promoter)

As a teenager, he submitted poems to Nagoya's influential fanzine, "Aoki Kishi." In 1929, he founded the avant-garde poetry magazine "Ciné" (with fellow contributors Ueda Toshio, Orito Horio, and Kitazono Katsue). Through direct contact with French surrealists such as Éluard and Breton, he promoted the Surrealist movement in Japan and became internationally known.

The "A Concise Dictionary of Surrealism," published in France before the war, describes him as "a surrealist poet and novelist, and a promoter of the movement in Japan."

Web 名古屋ゆかりの歌人・詩人 令和7年度基準

1/ 名古屋に居住・定期滞在した経歴が確認されている
2/ 関連資料や作品が名古屋市に複数収蔵されている 3/ 故人である

江戸

明治

大正

昭和初期

昭和中・後期

平成

↑年代別インデックス

※色は「郷土ゆかりの近現代文学史略年表」に準じます

※特別色・濃青：年代が江戸時代のため

ジャンル / 詩

poetry

名古屋市収蔵の資料

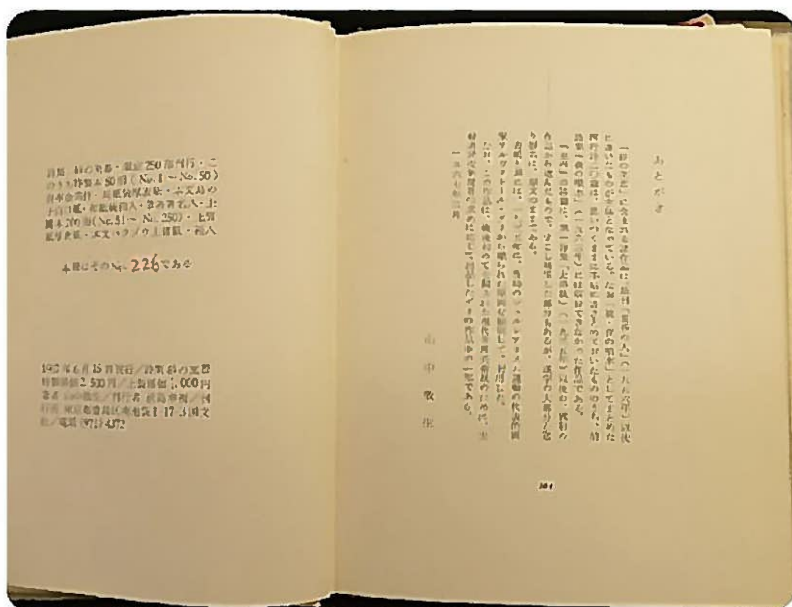
／山中散生

(一部掲載；収蔵先 文化のみち二葉館)

Collection related to Yamanaka Chiruu in Nagoya City.
Storage location: Cultural Path Futaba Museum,
City of Nagoya.

←『砂の楽器』

表紙と扉の挿絵は原画・サルヴァドール・ダリ。直接贈られたもの。



←『砂の楽器』

1967年 国文社・刊、A5判、第四詩集。上質紙厚表紙（51-250番）記番あり、外ボール函、毛筆署名入

上記資料の閲覧を希望される方は、文化芸術推進課または文化のみち二葉館までお問い合わせください。
なお、学術研究または教育普及目的の場合にのみ閲覧が可能で、所定の手続きが必要です。